

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270100617		
法人名	医療法人社団 回春会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 悠々の家		
所在地	島根県松江市川原町308		
自己評価作成日	令和7年2月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Ji_gvosyoCd=3270100617-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市米原2-7-7
訪問調査日	令和7年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護老人保健施設悠々園、小規模多機能型施設悠が隣接しており、季節に応じた行事や各月での行事も合同で行い、社会性を高め楽しみの持てる日常生活が送れるよう支援している。毎月、バイキング、誕生会、喫茶、弁当献立等の行事が行われ、美味しい物を食べる楽しさを提供している。看護師が配属されており、利用者の日常的な健康管理や医療機関との連携をとっている。利用者中心で個別ケアが生かされた介護サービスが提供できる様日々努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

4月には開設から25年目を迎えられる9名1ユニットのグループホームです。法人全体で地域の一員として、地域から信頼される施設を目指して取組まれています。同一敷地内に介護老人保健施設悠々園、小規模多機能型施設悠が隣接しており、利用者へは季節に応じた行事や各月での行事も合同で行ない、社会性を高め楽しみの持てる日常生活が送れるよう支援されています。毎月、バイキング、誕生会、茶話会、弁当献立、誕生日外食等が行われる等食事に力を入れておられます。また、ラーメンの屋台も定期的に來られるなど美味しいものを食べる楽しさを感じて頂ける機会を多く持てるよう図られています。看護師が配属されており、利用者の日常的な健康管理や医療機関との連携も図れており、利用者中心で個別ケアが生かされた介護サービスが提供できる様日々努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をサービスステーションに掲示して、週初めの朝礼で唱和している。また朝礼、スタッフ会等で理事長をはじめ幹部職員より人間の尊厳保持、その人らしい生活の保持についての話があり日々意識統一を図っている。	理念はサービスステーションに掲示し、週初めの朝礼で唱和されています。また、朝礼、スタッフ会等で理事長をはじめ幹部職員より人間の尊厳保持、その人らしい生活の保持についての話があり、日々意識統一が図られています。外部評価の機会も利用し、振り返りの時間を持ち実践へとつなげておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の悠々園模多機能悠との合同バイキングや行事、書道・絵手紙・手芸、園芸等のクラブ活動に参加し交流を行っている。	コロナ5類移行後も地域の方と利用者の交流は難しい状況ですが、併設の老健や小規模多機能事業所の利用者との交流活動は継続しています。法人が地域の一員として地域から信頼される施設になるよう努めてこれ、今年で開設から25年が経過されています。地域の集まりや奉仕作業にも職員が参加されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や入居希望の相談に対応することで地域との関りを持っている。当施設の利用対象でない状態になられた際にも困られないよう対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に運営推進会議を開催してサービス状況の報告、意見交換を行っている。地域の情報を得て地域の催しに参加したりしている。	2ヶ月に1度運営推進会議が開催されています。サービス状況の報告、意見交換が行われています。地区の民生委員も参加されており、地域の情報を得ておられます。	コロナ感染症も5類になりましたので、利用者の日々の姿を知って頂く機会として昼食試食会や避難訓練の様子を見て頂く事も良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険のサービスに関する問い合わせを必要時行っている。介護相談員受け入れを行いサービス向上に務めている。包括支援センターとは利用状況の問い合わせや新規利用の相談等を行っている。	介護保険のサービスに関する問い合わせを必要時に行っておられます。地域包括支援センターとは利用状況の問い合わせや新規利用の相談等が行われています。介護相談員も来られ、サービス向上に活用されていましたが、コロナ禍から中断しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設・事業所と合同でリスクマネジメント委員会を設置し、身体拘束廃止に努めている。施設内研修のほか、朝礼での話や、ヒヤリ・ハットをあげることで周知徹底を図ったり、不適切なケアを無くす事で職員の意識を高めている。	3ヶ月に1回委員会が開催されています。職員はフィジカルロックについては十分に理解されていますが、スピーチロックに対して注意を行ない、不適切なケアにならないよう気を付け利用者と信頼関係が築けるよう図られています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、リスクマネジメント委員会を設置し、研修を行うことで防止に努めている。	虐待防止の取り組みをリスクマネジメント委員会で話し合われ、研修計画に沿って研修が行われています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している利用者はおらず、自己研鑽に委ねている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には施設見学、面談を行い、入居時には重要事項説明書・契約書の内容について丁寧な説明を行うと共に、不明点や疑問点についても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の様子を毎月お便りにして家族へ伝えている。面会時・ケアプランの見直し時、事故等あった時や体調変化があった時など連絡を取り意見を聞いている。利用者から日々の生活でわずかなことでも希望、要望を聞き改善に努めている。	日常の様子を部屋担当が毎月お便りにして家族へ伝えておられ信頼関係が構築できるよう図られています。また、面会時・ケアプランの見直し時、事故等があった場合や体調変化など連絡を取り意見を伺っておられます。利用者からは毎日の生活の中で耳を傾け、小さなことでも希望、要望を聞き取り改善できるよう努めておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催されるスタッフ会、ユニット会で意見を出す機会を設け運営に反映させている。	毎月開催される同一敷地内の職員が参加する運営に関するスタッフ会、グループホーム内のユニット会で意見を出す機会を設け運営に反映させておられます。必要時には法人に設備改修の要求も行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキル評価表、介護技術チェック表、提出レポート等により勤務状況を把握している。	人事考課も導入されており、年間目標を設定され、評価は給与にも反映されており、個々の職員の頑張りが認められ、働きがいのある職場になるよう努めておられます。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や外部の研修へ行き知識を深めている。ただ、異動等あり認知症・法令等の知識に関して職員差がある状況。ユニット会や申し送り時等に定期的に研修を行っている。	新人研修や外部研修が行われ知識を深めておられます。認知症・法令等の知識に関してユニット会や申し送り時等に定期的に研修が行われています。また、WEB研修も利用されています。	チームケアを目指し、互いに補い合いながら業務に関って行かれると良いと思います。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等に参加して情報交換ができるよう計画している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わることで不安にならないようコミュニケーションを十分図るよう努めている。常に御利用者のペースに合わせて対応している。担当職員を設けることにより、より個別に対応できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際し、病院、自宅、介護サービス事業所等に出向き、担当者、ケアマネ、御家族、御本人より状況を聞き、心配事、不安な事を尋ね、少しでも不安や心配事が解消するよう一緒に考えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの情報、関係事業所、医師からの医療情報を検討し利用者が適切かどうか判定する。該当とならない場合、居宅介護支援事業所と連携を行い、適切なサービス利用の導入を支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、入居者を尊重し、共に生活する中で共感するという意識を持ち、入居者の得意とする事やできることを引き出し一緒に行うよう心がけている。レクリエーションや行事を入居者と職員一緒に楽しむよう行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	都度、生活環境、生活歴について家族、親族と情報交換を行い、共に支援するという関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会をオープンにしており、家族の面会時にはゆっくり話ができるよう配慮したりして、関係の継続ができるよう支援している。	居室内での面会もできるようになっており、家族の面会時にはゆっくり話ができるよう配慮したりし、関係の継続ができるよう支援されています。一番の馴染みの方は家族です。墓参りや法事に行かれる方もあります。	馴染みの人や場に行かれた場合等、回想法につなげ、利用者も思いを引き出し、聞き取られると良いと思います。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人を尊重しながら、レクリエーションや行事を通じて職員が架け橋となり、なじみの関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係者や御家族と連絡をとったり、相談の問い合わせがあれば都度、対応して支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、ケアプラン見直し時など、本人や家族が望まれる生活を伺い、意向に沿うよう努めている。	アセスメントの段階でも意向確認をされますが、日常的に希望や意見を伺われています。意思表示が難しい方は、家族や生活歴から検討されています。	思いや意向の把握から、本人の生きる目標や生きがいに繋げて行かれると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネージャーより情報収集し、調書の作成及びカルテを記載し、情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報、カルテ、連絡帳、ミーティング記録等より情報収集を行ってから勤務に就く。周知徹底事項、気付きは記録に残し、情報の共有化を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々ケアや見直し時には計画作成担当者、利用者担当者を中心に、主治医の意見も尋ねてケアプランの見直しを行っている。	24時間シートを担当者が作成され、計画作成担当者が聞き取り、素案を作り、主治医の意見も入れ、カンファで他の職員の意見も聞き、原案作成から本案を決定されています。モニタリングは毎月行なわれており、6ヶ月に1回評価・見直しが行われています。状態変化があれば随時行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ、ミーティング記録に日々の生活の様子を記載し情報交換している。連絡ノート、ヒヤリハットを活用して職員間で情報共有を行っている。排泄時間を記録して日々のケアや、介護計画の見直しに役立てている。	記録はすべて手書きで行なわれています。カルテ、ミーティング記録に日々の生活の様子を記載し情報交換をされ、連絡ノート、ヒヤリハットを活用して職員間で情報共有が行われています。排泄時間を記録して日々のケアや介護計画の見直しに役立てておられます。プラン変更時の留意点について計画作成者は記録への注意も伝えておられます。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師が勤務しており、医療面では主治医と連携を図っている。また必要時には隣接する老健の管理栄養士、リハビリ等に相談する事もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回の防災訓練で消防署より指導を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期往診がある。体調不良や怪我をされた場合は看護師が中心となり、家族、かかりつけ医と連携をとって適切な医療が受けられるよう支援をしている。	かかりつけ医の定期往診があり、体調不良や怪我をされた場合は看護師が中心となり、家族、かかりつけ医と連携をとって適切な医療が受けられるよう支援をされています。歯科も往診対応があります。内科以外の他科受診に家族と行かれる際には日常的な状態提供表を提供されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の体調の変化、気づいた事等を都度、看護師へ報告・相談を行っている。看護師から主治医へ連絡・相談を行い適切な医療が受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループホームでの状況を文書で病院へ伝えている。日頃から病院の相談員と連携し、関係作りに努めている。	病院の地域連携室に文書を送付され、ソーシャルワーカーと連携をとり関係作りに努めておられます。早期退院を目指し、退院時には退院カンファもあり、生活上の注意点等も聞かれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り、緩和ケアのマニュアルは作成している。早い段階から家族、主治医と話し合い、事業所の出来る事を説明しながら方針を共有し、他の事業所等とも連携して支援している。	看取り、緩和ケアのマニュアルは作成されています。入所時にはグループホーム内でできることを説明され、早い段階から家族、主治医と話し合い、医療行為の説明を家族に説明され、方針を共有し、同一敷地内の老健への移行を含め、他の事業所等とも連携して支援が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニット会や日々の申し送り時に急変時の連絡方法の確認を行っている。急変時や事故発生時の対応・連絡方法をサービスステーションに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災、避難訓練を実施している。(夜間、昼間想定)職員は全員参加し、意識を高めている。併設施設とも連携を図るようにしている。	年2回の防災、避難訓練を実施されています。(夜間、昼間想定)職員は全員参加し、意識を高めておられます。併設施設とも連携を図り合同避難訓練も行われています。事業継続計画(BCP)の策定も行われており、備蓄品は併設の老健内に用意されています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の利用者の生活リズムに配慮している。利用者の性格や意向を理解して、声掛けや支援を行っている。	排泄・入浴はマニュアルに沿ったプライバシー保護が行われています。居室は個室対応になっています。一人ひとりの生活リズムに配慮され、利用者の性格や意向を理解した声掛けや支援が行えるよう心掛け、接遇研修も行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主体のケアにならないよう、意向を確認しながら利用者主体のケアを心掛けている。自己決定ができるよう環境・関係づくりに務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間、家事や余暇時間の過ごし方等、本人の意思や希望を尊重して支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服は自分で選んでいただくようにしている。髪のカットも本人の好みにしてもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けを行っている。バイキングの時は本人に取ってもらえるよう支援している。	隣接する老健から食事が運ばれ、御飯と味噌汁はGHで用意されています。職員と一緒に食事の準備や片付けも手伝われています。忘年会では鍋もされ、季節感のある食事、行事食、誕生会もありケーキの提供もあります。毎月の施設の合同イベントで昼食バイキングも行われており、みなさん楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は好みの飲み物をできるだけ多く摂取できるよう働きかけている。食事状況を確認して摂取量や嗜好を把握するようにし、その方にあった食事形態の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行っている。都度口腔内や義歯の状態を確認している。	食後にはそれぞれの利用者の状態に応じて声掛けや支援が行われ、口腔ケアが行われています。夜間は洗浄液に定期的に入れ、清潔保持が行われています。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを職員間で情報共有して支援している。立位が難しい方もオムツの使用を減らし、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを職員間で情報共有して支援が行われています。最期までトイレで排泄して頂けるよう、個々に応じて声掛け、誘導、介助等の支援が行われています。立位が難しい方もオムツの使用を減らし、できるだけトイレで排泄ができるよう支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用して排便のリズムを把握するよう努めている。水分を多めに摂取してもらうよう働きかけたり体操や運動も行い排便を促すよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	皆様入浴を楽しみとされている。ゆっくりと入浴していただき身体と心がリフレッシュできるように支援している。	週2回の入浴を目安とされています。一般浴で対応されています。浴槽に入られることを拒否される方にはシャワー浴で対応されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や習慣、体調等により午睡、就寝、起床できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する事はカルテに記載し、目的、副作用など分かるようにしている。薬は職員が管理しており、服薬時飲み込まれるまで確認を行っている。	薬局から配達され、看護師が配薬を行ない、介護士、看護師でもう一度チェックされています。薬に関する事はカルテに記載し、目的、副作用等分かるようにされています。薬は職員が管理されており、服薬時飲み込まれるまで確認をされています。薬の変更時には看護師から職員に伝え、変化について観察し、異変があれば看護師が医師に連絡されています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道・絵手紙・手芸・音楽等希望のクラブ活動に参加してもらっている。個別の趣味活動も本人のペースでできるよう支援している。食事の準備や片付けを手伝って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、希望、体調により出来るだけ屋外に出て外気浴を行っている。併設の老健の行事に参加することも楽しみになっている。	家族との外出もできるようになりました。天気の良い日は玄関・ベランダで日光浴、散歩の好きな方もあります。これからの季節お花見にも出掛けられる予定です。また、併設の老健との合同での行事を楽しみにされている方もあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていない。外出行事で買い物をしたい方には、立て替え金で所持し買い物をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話をかけていただけるよう支援している。携帯電話を所持されている方の操作方法の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースは清掃を行い、清潔を保っている。季節の花を生けたり、季節に相応しい飾り付けを行っている。ベランダに花を植えたりして季節を感じて頂けるようにしている。	共用のスペースは温度管理をされ、換気にも気を付け、清掃され清潔が保たれています。車椅子でも移動しやすいゆったりとした空間になっています。季節の花を生けたり、季節に相応しい飾り付けが行われています。ベランダに花を植えて季節を感じて頂けるよう工夫されています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの傍にソファを設置してのんびりテレビを観たり、利用者間で談話できるようにしている。窓際にもソファを設置しており日光浴や外の景色を眺めたり、一人で読書したりと自由に利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物や今まで使用しておられた物を持ってきて頂いている。レクリエーションやクラブ活動で作成した物を飾っている。	入居時には馴染みの物や今まで使用されていたものを持って来ていただき居心地良く過ごしていただけるようにされています。長くGHで暮らしておられる方が大半ですので、自分の作られた作品を部屋に飾られ、それぞれに落ちついて過ごしておられる様子です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールの壁に大きなカレンダーを設置して日時がわかるようにしている。各居室の入り口に表札を掛けたり、トイレや浴室には都度職員が声掛け案内して、混乱されないよう安心していただけるよう配慮している。		